

ノルウェーの暮らしと 修士留学の紹介

埼玉親善大使レポート⑤ 2022年1・2・3月

オスロ大学修士課程
特別支援教育専攻
河村晏奈

コロナウイルスが再拡大した年末年始、年明けの授業は全部オンラインでしたが、2月にはほぼ対面授業に戻りました。非常事態になったときの、国民に対する政府の対応の違いを感じたり、冬の自然の美しさを感じたりした1～3月でした。また、以前から活動している空手の学生団体についても紹介したいと思います。



2月に入って、ノルウェーの企業で働く友人が「来週末は勤務先のクリスマスパーティーがあるの！年末できなかったから！」と言っていて驚きました。年末のオミクロン株急拡大時に厳しくなった規制が、2月には大幅緩和が発表されました。抗原簡易検査のセルフテストは薬局やスーパーで買えたり、学校や会社、公共の場所で配られたりしました。緊急事態に政府は国民に情報を伝えようと、とにかく会見を開きます。特に驚いたのは、大人向けの会見と同じメンバー（首相、経済・保健・教育等の大臣）が、子供向けの会見を開いて放送されていたこと。また学校に行けない日々になってしまうの？毎日コロナ検査をしなければいけないの？いつおじいちゃん・おばあちゃんに会えるの？など、子どもたちが抱える不安に政府の主要メンバーが子どもに伝わりやすい言葉で答えていました。ロシアのウクライナ侵攻が始まった際も早い段階で会見を開き、子どもの不安の声に答えていました。



オスロオペラハウス(Operahuset i Oslo)はフィヨルドに浮かぶ冰山をイメージしてデザインされた斬新なデザインが特徴で、屋根に登ると海沿いのフィヨルドやオスロの街並みが見られます。雪が残る晴れた日の景色は本当に素敵です。



オスロの中央駅から地下鉄で 20 分の場所に、Sognsvann という湖があります。すぐ裏は多くの学生が住む集合住宅地ということもあり、普段からお散歩している人が多いです。夏はたくさんの方が湖で泳いだり、湖沿いでバーベキューしたりしていました。冬になると湖が一面凍ります。お散歩している人、スケートしている人、走っている人、ベビーカーを押して歩く人、ベビーカーを押しながらスケートする人、子どもを乗せたそりを引きながら歩く人、クロスカントリースキーをしている人、犬を連れて歩く人など、赤ちゃんからお年寄りまで多くの人が、冬の太陽と雪と自然を楽しんでいました。



日本に負けずノルウェーでも空手は人気です。ノルウェーに来た 8 月には、地元の空手クラブに入りました。オスロには学生のためのスポーツ団体 OSI があり空手も含まれていますが、コロナ渦でメンバーが 0 になり、活動休止状態でした。そんな中様々な人との出会いがきっかけになり OSI を立て直すことに。私はヘッドコーチに就き、リーダーやエコノミストのボードメンバーとともにチームを運営しています。経験者からまったくの初心者まで徐々にメンバーが増え、今では 10 人になりました。来学期は本格的にリクルート活動して、チームの拡大を目指しています。たくさんの学生に、空手のおもしろさや日本の文化が伝わるいいなあと思っています。

